

## 龍潭寺の歴史

龍潭寺には何世代にもわたる井伊家とのつながりがあります。龍潭寺のある場所はもともと井伊家の領地でした。通常なら龍潭寺ほどの規模の寺院が建てられたはずのない辺ぴな農村であり、龍潭寺の発展は井伊家の寄進によるところが大きいのです。開山堂はこの地域では珍しい楼閣造りの建物で、瓦屋根には井伊家の家紋がついているのが見えます。

井伊家は江戸時代（1603～1867 年）になるとますます大きな影響力をもつようになり、現在の滋賀県に位置した彦根藩の藩主にまで上り詰めます。井伊家は本拠地を彦根に移したにもかかわらず、引き続き龍潭寺を菩提寺としたので、井伊家代々の当主の位牌は今も龍潭寺に安置されています。

つくられてから 350 年以上経つ龍潭寺庭園には、石、低木、高木、苔が入念に配置されています。龍潭寺の建物同様、庭園も井伊家の先祖に敬意を示すために設計されており、先祖の位牌を安置する建物（井伊家御霊屋）が書院から見えるように配置されています。